

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

所属(学部(研究科)・学年)：農学研究科 修士1年

氏名：入口 智彦

授業科目名	国際バイテク・リーダー育成(大学院)
研修先(国・地域) 滞在地	タイ王国・バンコク市、モンクット王工科大学トンブリ校
研修期間	2018年2月13日(火) ~ 2018年2月24日(土)
<p>〔研修を通じて得た成果〕</p> <p>私は今回、タイ王国・バンコク市にあるモンクット王工科大学トンブリ校において研修を行った。</p> <p>まずメインの活動の一つとして、KMUTTの大学院生の方々と共にPBL(Problem-Solving-Learning)に取り組んだ。今年のPBLのテーマは(Food loss, Food waste)であった。鹿児島大学側・KMUTT側双方の学生がテーマについて事前に調べ、本実地研修のPBLの講義の中で互いの学生の意見交換、取りまとめとPPTによる発表までを行った。この活動において私はまず最初に、自身の英語力の不足を改めて実感した。日常会話に限れば、ある程度自分の知っている単語を並べるだけでもKMUTT側の学生さんとも意思疎通が可能であったが、テーマに対してディスカッションするにはつたない英語力だけでは不十分であると痛感した。なかなか互いに深くまで議論しきれず、よりうまく伝えようとしてもなかなか伝わらないもどかしさを感じた。しかし一方で、英語が得意でないとしても、黙っておらずに何度も自分の思いを伝えよう・相手の言いたいことを読み取ろうというとし続ける姿勢が大事であると感じた。今回の研修中はその点を特に意識し、できるだけタイの人とコミュニケーションをとるようにした。</p> <p>もう一つの大きな研修として、チットラダー宮殿で行われているロイヤルプロジェクトを見学した。ラーマ9世の主導で行われたこのプロジェクトは、タイの生産力を向上させ農民の生活を助けるために行われたものである。食料生産・加工・クリーンエネルギー・バイテク技術等に関する様々な取り組みを見学することができた。</p> <p>またKMYUTTの先生方から、タイの農業・ポストハーベスト・お米・蘭についての講義をしていただいた。農業大国であるタイの農業生産と、輸出する世界とのかかわりについて学ぶことができた。</p> <p>加えて、味の素アユタヤ工場、タイのNFI(National Food Institute)、オーキッドファーム、グリーンデリ等の、タイの食品・花きに関する研究所や企業等への見学も行った。タイの食品を海外に売り出していく際の苦労や問題等を実際に直接聞くことができ、良い経験となった。</p> <p>そして、アユタヤ遺跡や日本人村、数々のお寺への訪問やタイの学生との交流を通じて、タイ特有の歴史や文化・言語について学んだ。自らで見聞きしたタイの文化や様子は、私の中で大きな刺激となった。</p>	
<p>〔研修後の抱負〕</p> <p>今後はこの研修で得た様々な経験を糧とし、自身の将来の幅を今よりも広げられるようにしたい。今回、タイでグローバルに活躍されている企業や機関の方とお話する機会を多く得た。世界中を相手にする仕事のやりがいやそこで働く方々の熱意を感じ、自分も世界を相手に働けるような仕事もしてみたいと思うようになった。そのためにも語学力・とりわけ英語を話す力話す力をつけたい。このような貴重な経験をさせて頂けたことに深く感謝し、努力をしていきたい。</p>	

学生海外研修報告書

鹿兒島大学長 殿

研修参加者

所属(学部(研究科)・学年)：農学研究科1年

氏名：柴田 有里佳

授業科目名	国際バイテク・リーダー育成
研修先(国・地域) 滞在地	タイ王国バンコク市 モンクット王工科大学トンブリ校
研修期間	2018年2月13日～2018年2月24日
<p>〔研修を通じて得た成果〕</p> <p>現地講義は英語であったため、理解しながらメモをとって質問するのは大変でしたが、タイ研修前から週1日2コマの講義を受講していたため、現地学習の際は一層理解を深めることができました。研修期間中は、毎日現地の学生と交流できる環境が整っていて、自然と英語を使ってコミュニケーションをはかることができました。話の内容が少し難しくなると聞き取れないことがありましたが、研修期間中にリスニング力は徐々に向上していったのを感じました。話しかける際は、1度で聞き取ってもらえなくても、諦めずに何度も問いかけることで伝えたいことを分かってもらえ、英語を話す自信にも繋がりました。現地では、何度か英語を使った発表をする機会もありました。そこでも、失敗を恐れずにチャレンジすることができた点は良かったと思います。また、研修の前からタイ語をタイ人の学生から学ぶことができ、わからないことが出た時もすぐに解決することができました。研修の前から学べたことで、多くの場面でタイ語を使うことができ、タイ語で話しかけた時の方が現地の方の表情が明るくなる姿を見ることができました。企業訪問では、AJINOMOTO、マナ・ラン農園、国立食品研究所、グリーンデリ・フードへの見学を通して、タイの食品、花卉産業について学ぶことができました。AJINOMOTOでは、日本企業が海外進出したときに直面した困難への解決策や、AJINOMOTO製品が現地の人に愛され、生活に染み込んでいった成り行きを学びました。マナ・ラン農園は、タイ輸出花卉1位のランを栽培する企業で、現地での栽培方法や、どのようにしてランに付加価値を与えているかを学びました。国立食品研究所では、食の安全をどのように守っているのか、実際に研究施設を見学しながら学びました。グリーンデリ・フードは、国際的な規格に基づいた冷凍食品の生産を行っていて、ハラルなど日本ではまだまだ表示の少ない規格について、どのような違いがあるのか学びました。企業訪問の他にも、アユタヤ遺跡、日本人町、博物館見学では、タイが貿易によって盛え、アユタヤ近辺に様々な国の人々が集落を作って生活していたことを知りました。また、タイがどのように発展していったかを歴代国王の功績とともに学ぶこともできました。ローズガーデンでは、タイシルク、楽器、民謡、スポーツ、花工芸品などのタイの伝統的な文化を体験することが出来ました。問題発見解決型学習では、フードロスに対する国ごとの取り組みや、削減方法をディスカッションすることができました。しかし、ディスカッションの時間に多くの時間を割いてしまったことで、発表準備のための時間が少なくなってしまったので、次回からは時間配分に気をつけながら進行していかなければいけないと感じました。また、タイの方は国王のことを敬愛していたり、いたるところに国旗を飾っていて、国民一人一人が国のことを誇りに思っていることを様々な場面で感じました。私たちも、日本の言葉や文化をもっと大切にすべきだと改めて実感しました。研修を通して今後の指針も定まり、研修先でのモチベーションを今後も維持していきたいと思っています。</p>	
<p>〔研修後の抱負〕</p> <p>研修期間中は毎日、現地講義、現地の学生、企業訪問先等で英語に触れましたが、専門英語になればなるほど聞き取ることが困難で、人によっては使っている英単語が今まで学習してきたものと異なっていることで、理解することが困難な場面がありました。帰国後は、この悔しさをバネに語学力向上に努めるつもりです。また、現地の方と交流する為には現地の言葉を学ばなければいけないと強く痛感しました。夏には、スロバキアへの留学を控えているので、英語、スロバキア語ともに力を入れます。また、タイの学生と交流する中で、現地の学生の方と比べて英語の使用頻度に圧倒的な違いがあることに気づきました。同じアジア圏という環境下で、これほど大きな差があることに愕然とした一方で、自ら英語を使用する機会を増やす努力をしようと思えました。</p>	